

令和4年度

宇城市

介護給付費等分析報告書

認定者情報による

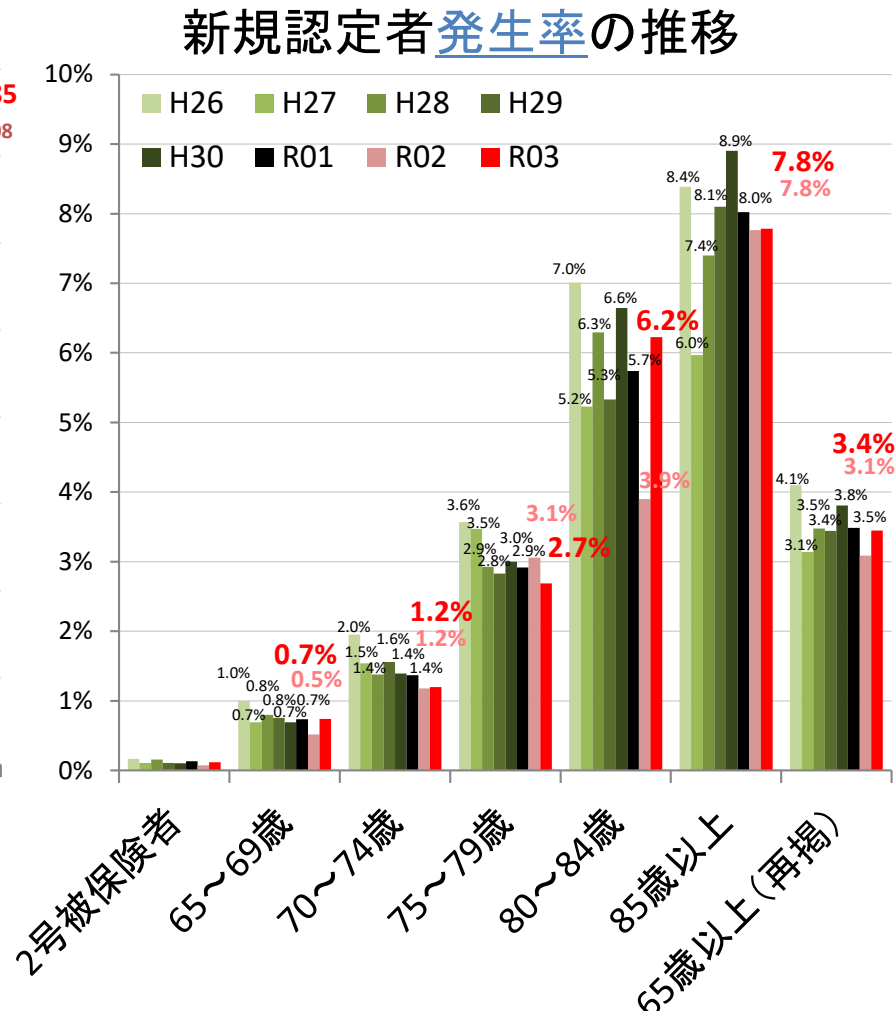
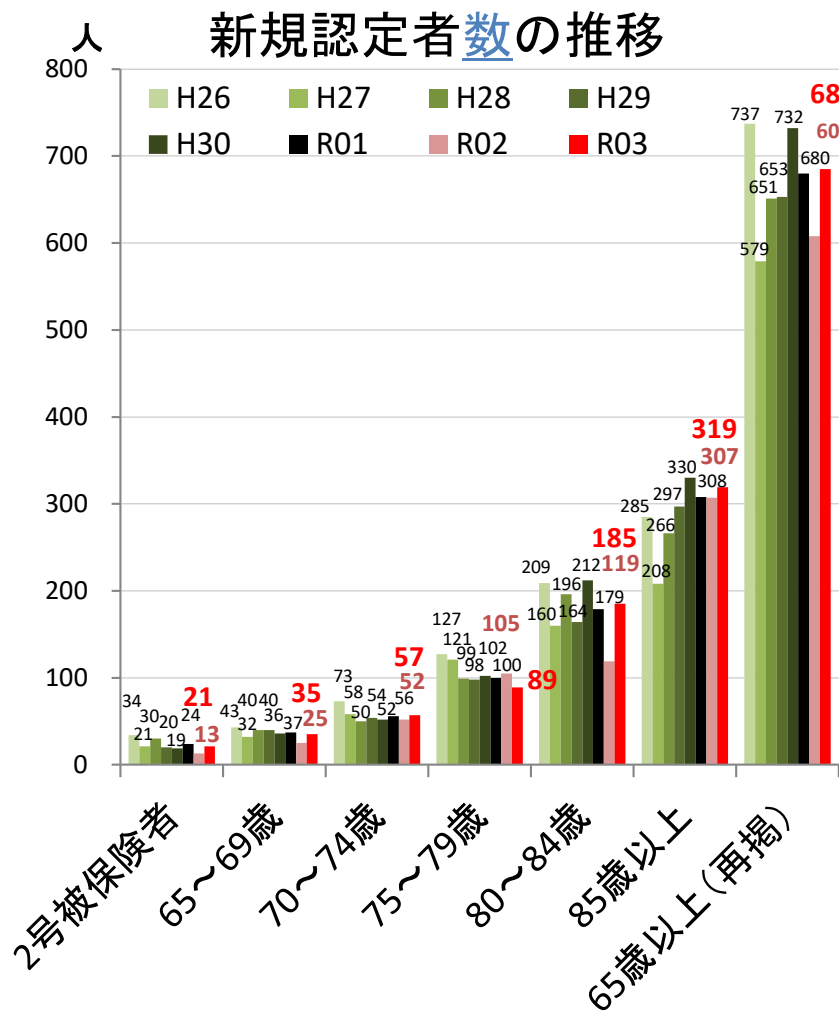
新規認定者および要支援悪化者の分析

分析年度（平成26～令和3年度）

株式会社 くまもと健康支援研究所

新規認定者発生者数・発生率の推移

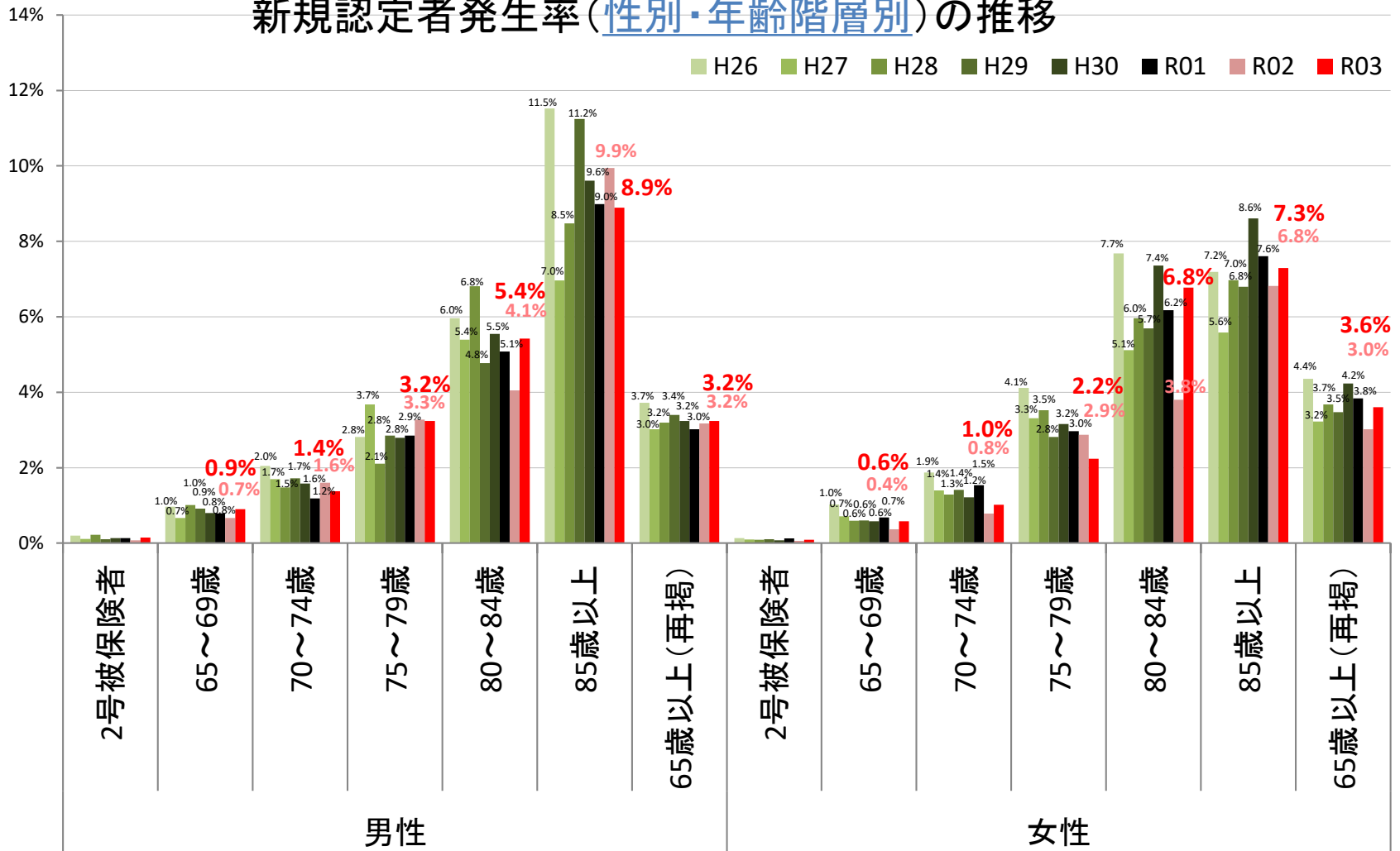
- 令和3年度の新規認定者数は**685人**、新規認定者発生率は**3.4%**であり、前年度より増加している。
- 年齢別にみると、**75歳を境に新規認定者の発生率の増加傾向が加速**する傾向があり、75歳時点でMCIやフレイルを早期発見し、要介護認定に至らないような早期介入が求められる。



新規認定者 性別年齢階層別発生率の推移

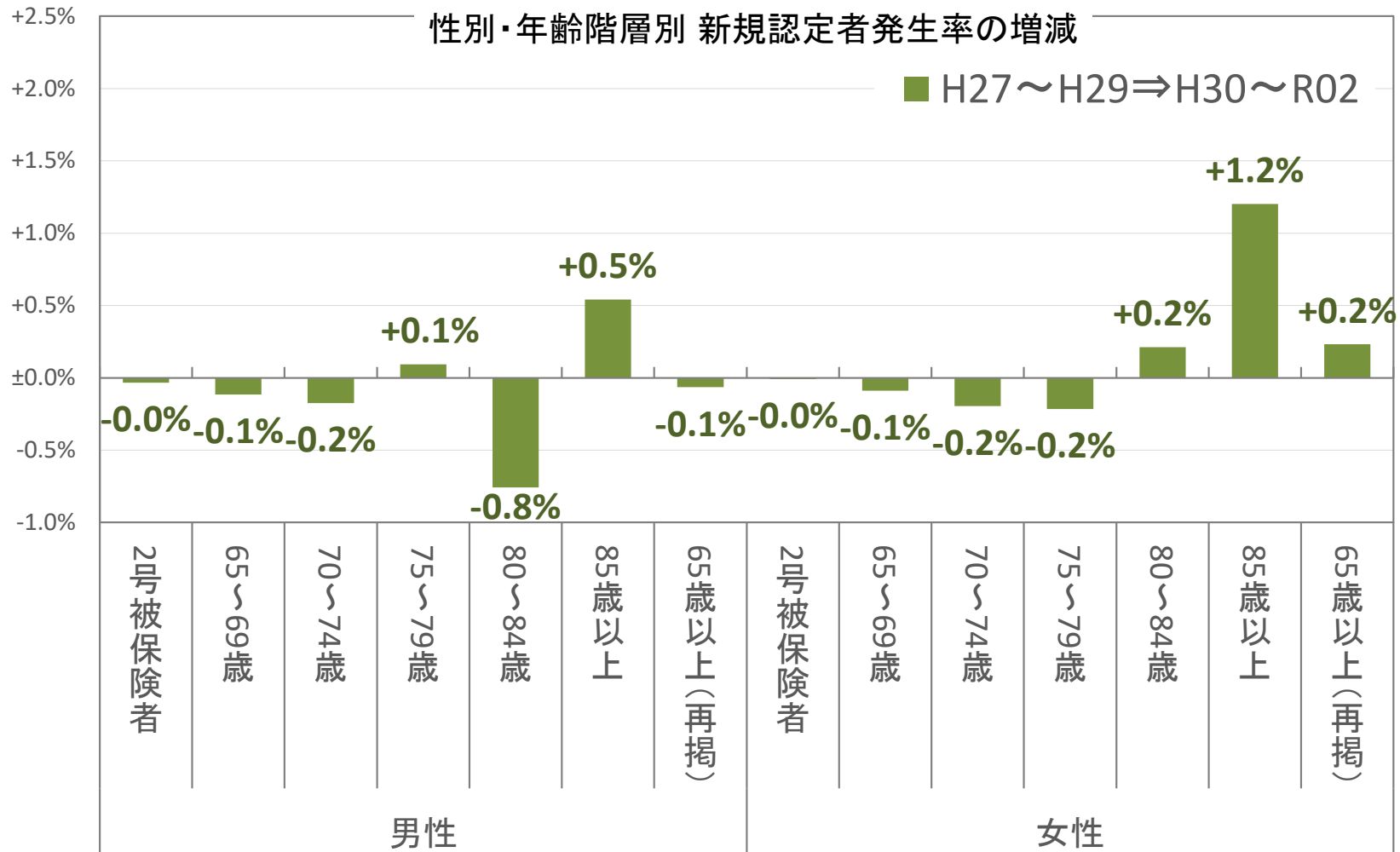
- ・男女別にみても、**75歳を境に新規認定者の発生率の増加傾向が加速**する傾向がある。
- ・**令和3年度**、男性女性ともに80～84歳の年齢層において前年度よりも大幅な増加がみられた。

新規認定者発生率(性別・年齢階層別)の推移



新規認定者 性別年齢階層別発生率の増減 (3ヶ年度単位推移)

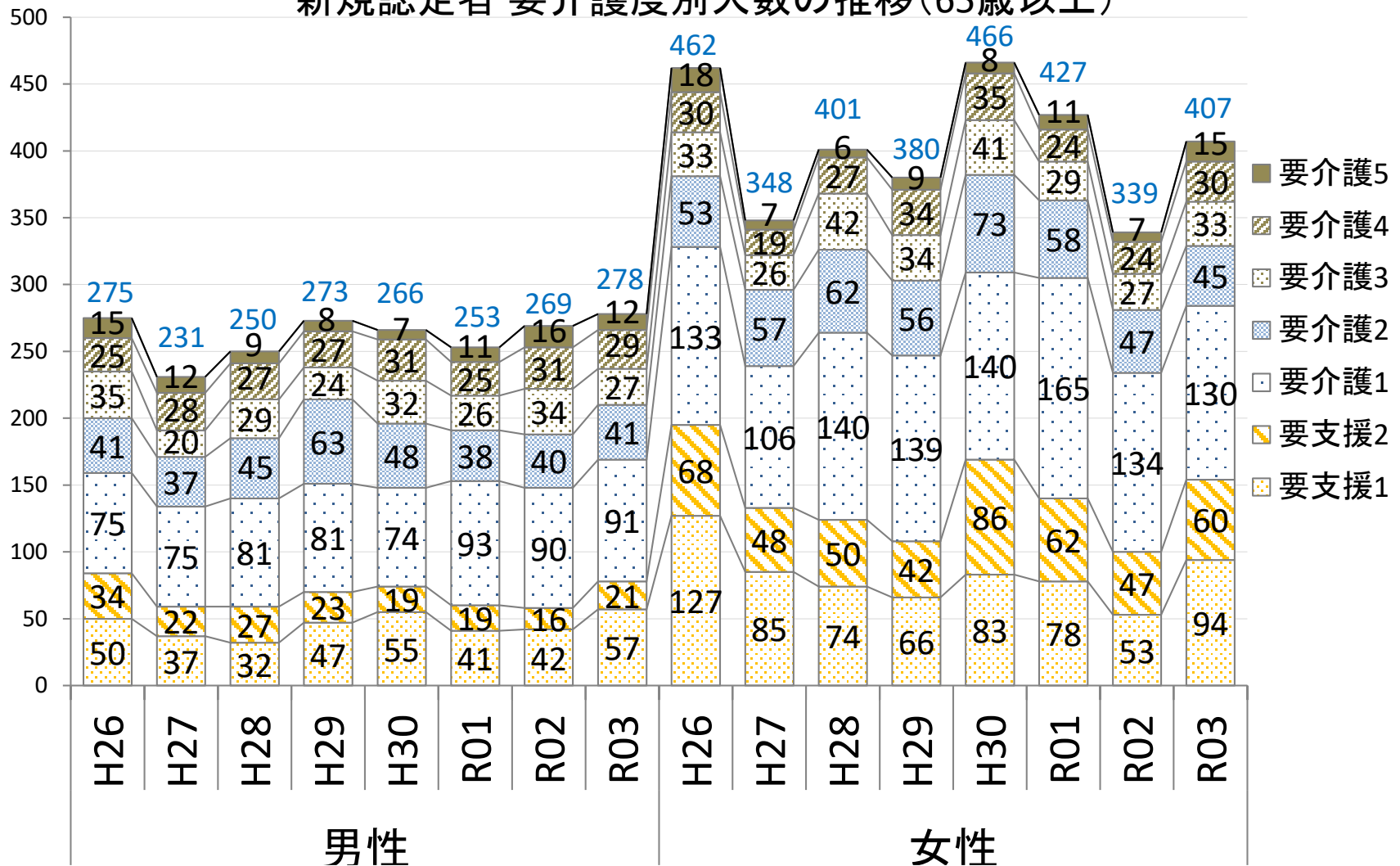
- ・ H27～29年度とH30～R02年度の3ヶ年度ごとにまとめ、性別・年齢階層別新規認定者発生率の増減をみると、
男性は、84歳までの年齢層では減少傾向、85歳以上で発生率の増加がみられた。
- ・ 女性は、79歳までの年齢層で減少、80歳以上で発生率の増加がみられた。
- ・ 男女ともに80代になる前の新規認定の発生が抑制されるようになり、認定年齢を遅らせている可能性がある。



新規認定者 要介護度別発生状況 (65歳以上)

- ・ 男性と女性いずれも、**要支援1～要介護1**の**新規認定者数が大半**を占める。
- ・ 令和3年度、男女ともに要支援1、要支援2において、前年度よりも増加がみられた。

新規認定者 要介護度別人数の推移 (65歳以上)



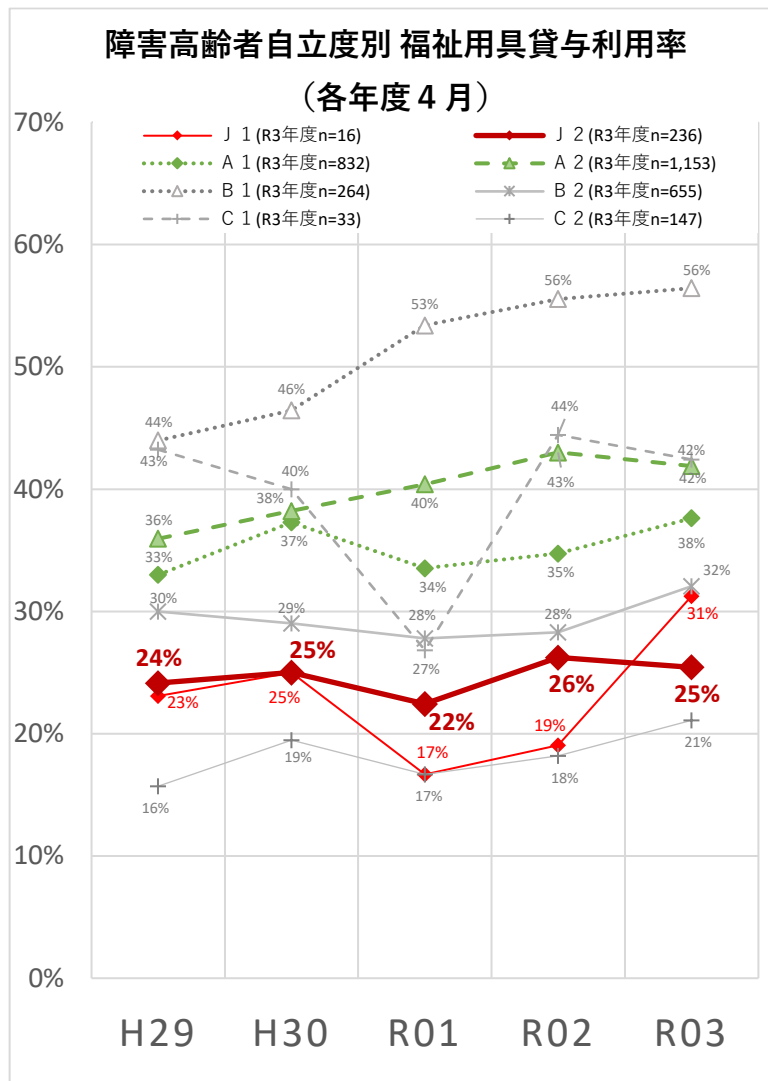
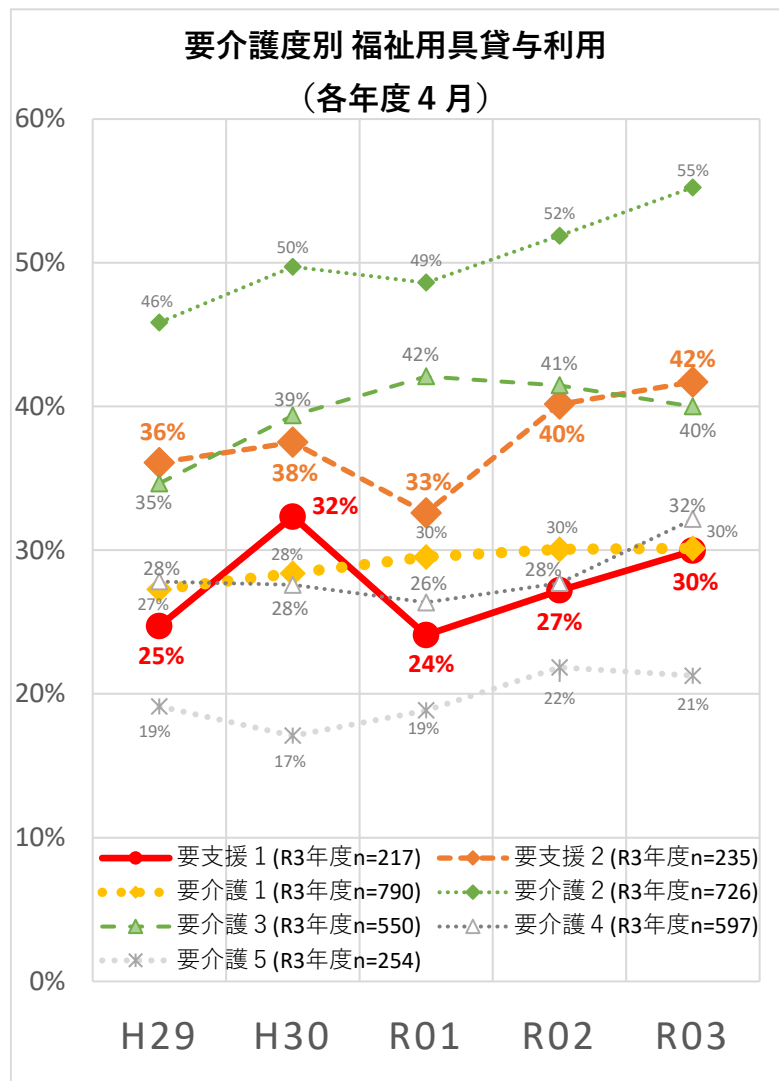
介護度別・障害高齢者自立度別福祉用具貸与利用

※このページのみ、分析対象は、新規認定者に限定されない各年度4月時点の認定者

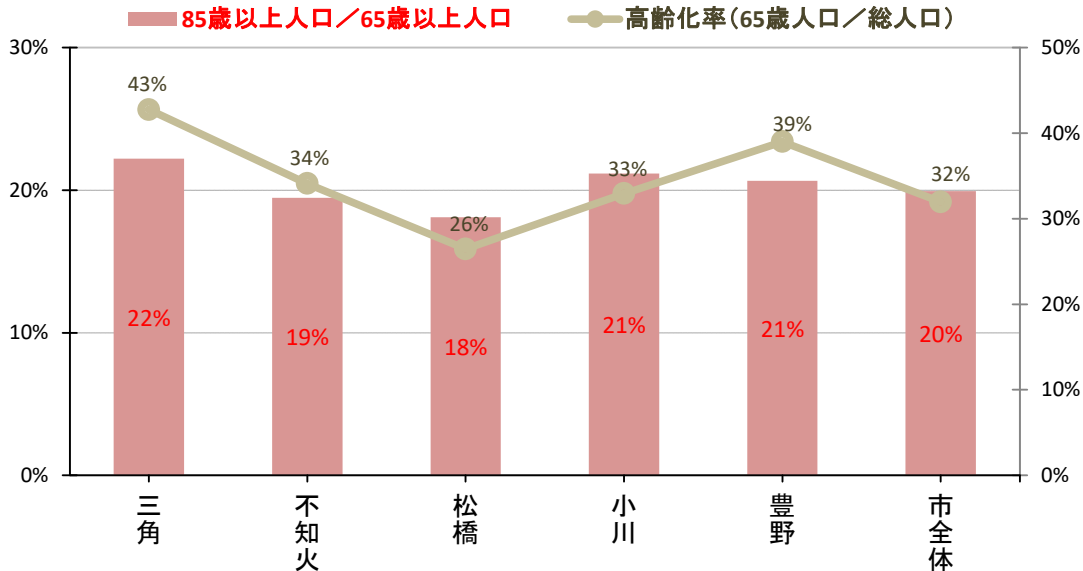
- ・（新規認定者に限定されない）認定者の令和3年4月の福祉用具貸与利用率は、**要支援1では30%、要支援2は42%**であり、直近3年間は増加傾向にある。

- ・障害高齢者自立度J2の認定者では、令和3年4月は25%の利用率であった。

※下記グラフのJ1、C1については、対象者数が少ないため、評価、判断の材料とすることは難しい。



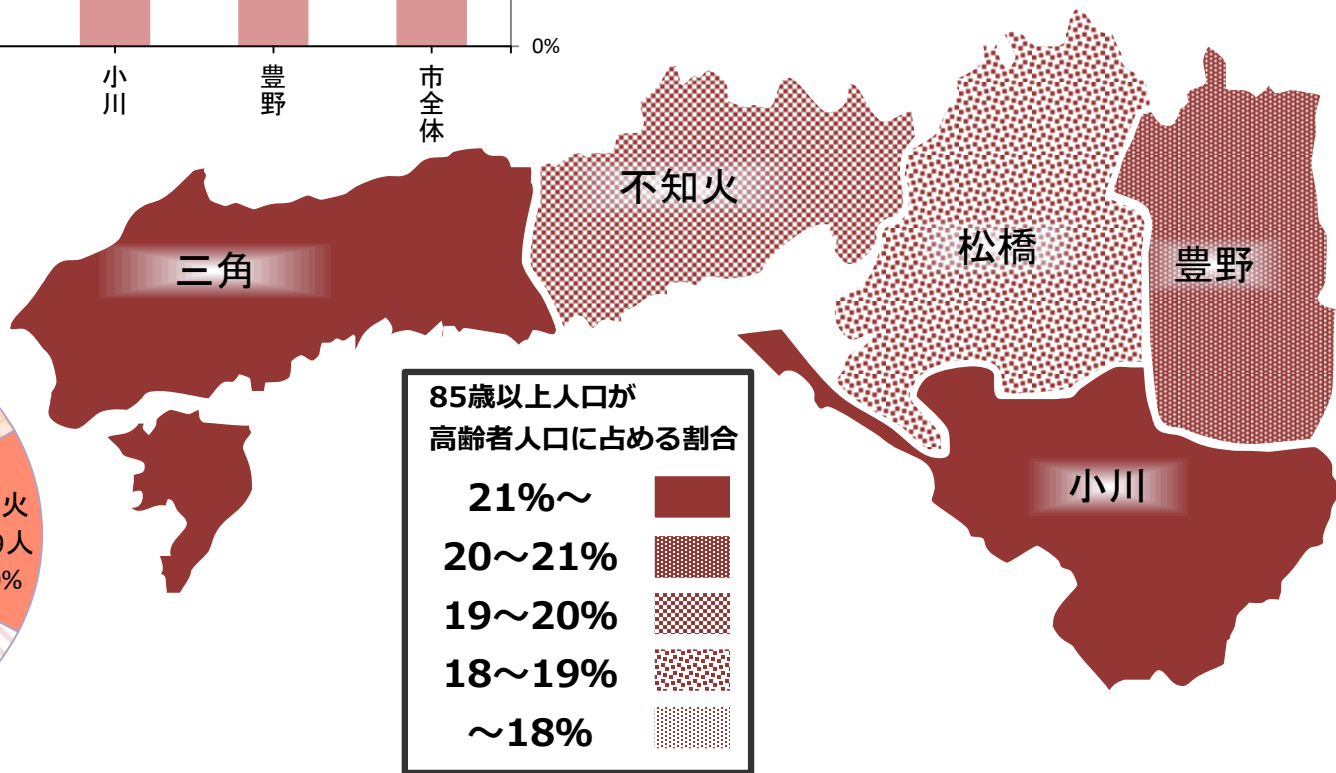
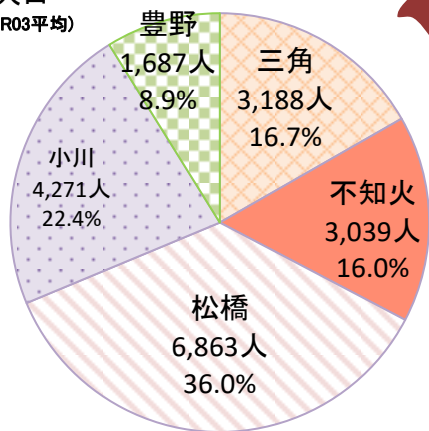
各地区の高齢化率と85歳人口の占める割合 (H26~R03平均)



地区

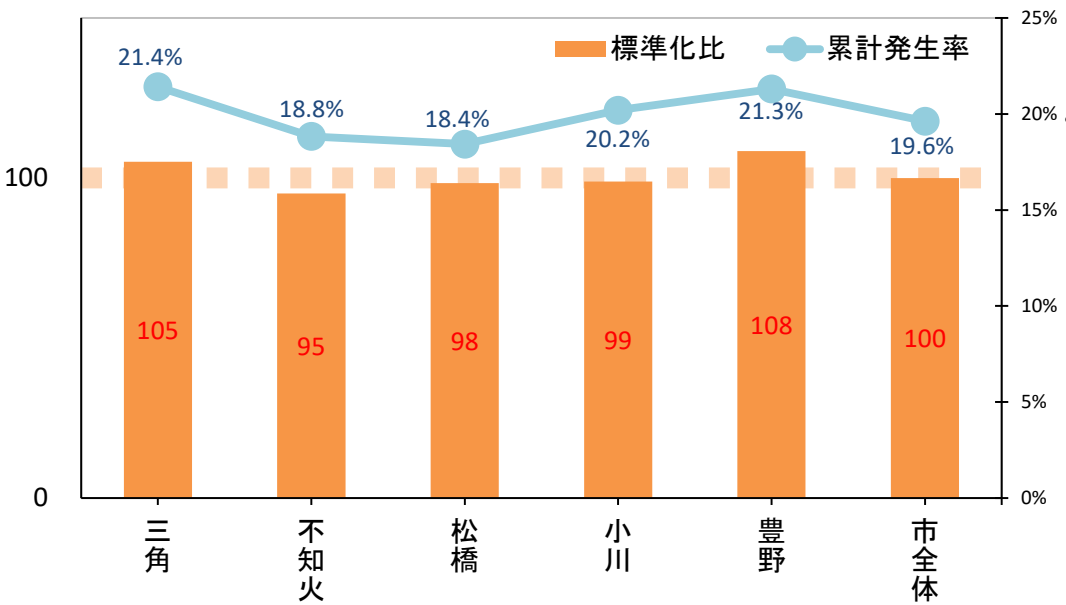
- 85歳以上人口が占める割合が他地域よりも高い地区は、認定率が高めに出る傾向がある。
- 三角、小川は、この割合がかなり高めである。
- 各地域を、年齢構成の差を排除して比較するためには、「年齢調整済認定率」を用いる必要がある。

各地区の65歳人口 (H26~R03平均)



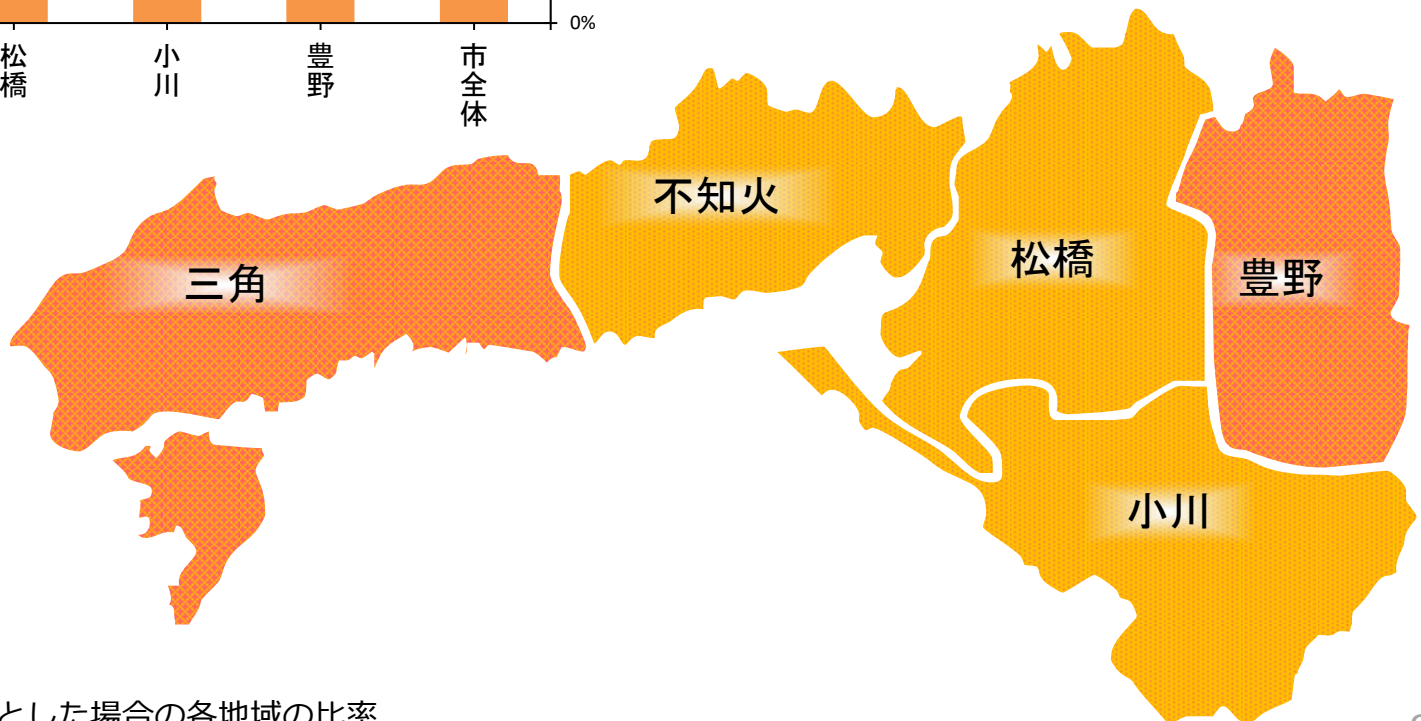
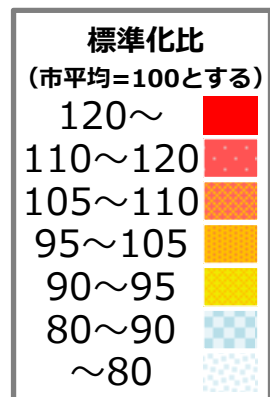
地域別 新規認定発生状況分析 (65~84歳)

標準化新規認定者発生比(65~84歳、H26~R03累計)



地区

・年齢調整済み新規認定率では、**地区間での大きな差はみられなかった。**



※標準化比：市全体を100とした場合の各地域の比率

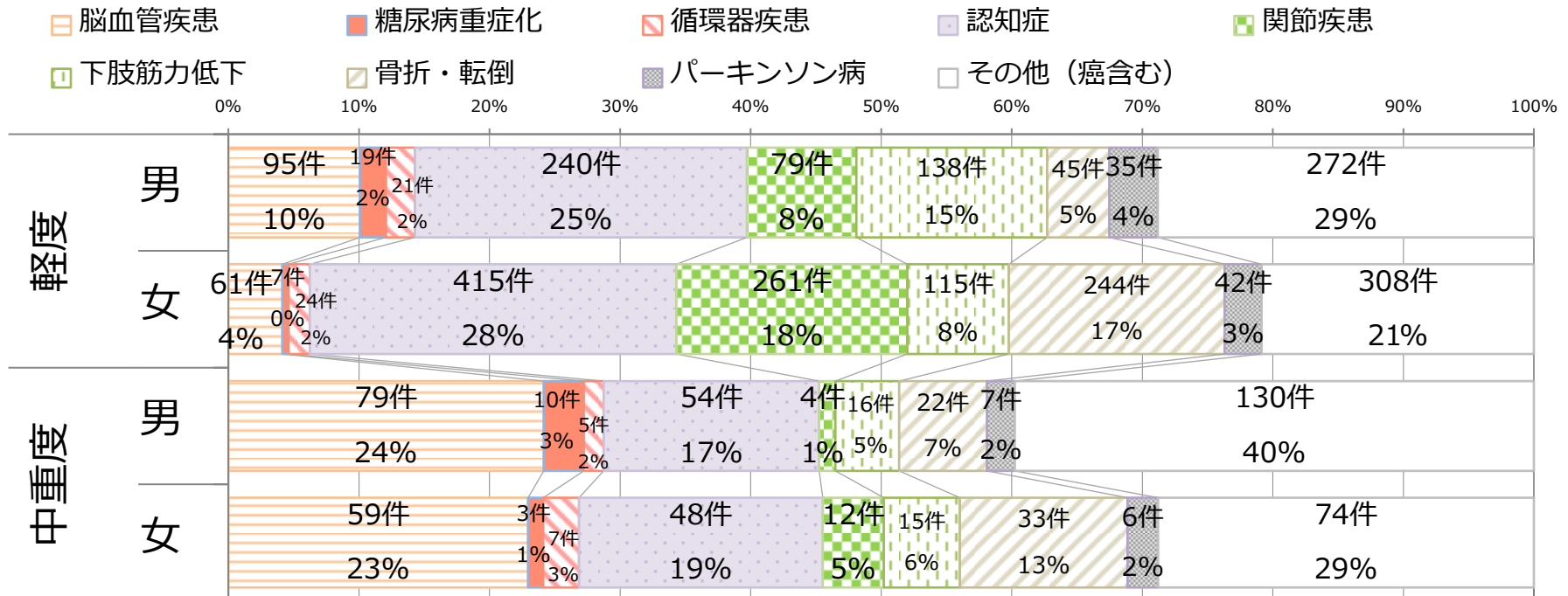
原因疾患別新規認定者発生状況 (65~84歳)

- ・新規軽度認定者の原因疾患をみると、その他（癌含む）を除けば、**男性女性ともに認知症が最も多い。**
- ・また、**関節疾患と下肢筋力低下**を合わせた口口モ要因も多く、**認知症と合わせると約5割**を占める。
- ・**中重度の原因疾患では、その他（癌含む）を除くと、男女ともに脳血管疾患が最も多い。**
- ・**女性は、軽度、中重度ともに骨折・転倒の割合も大きい。**

※その他（癌を含む）：癌、うつ病、統合失調症、COPDなど

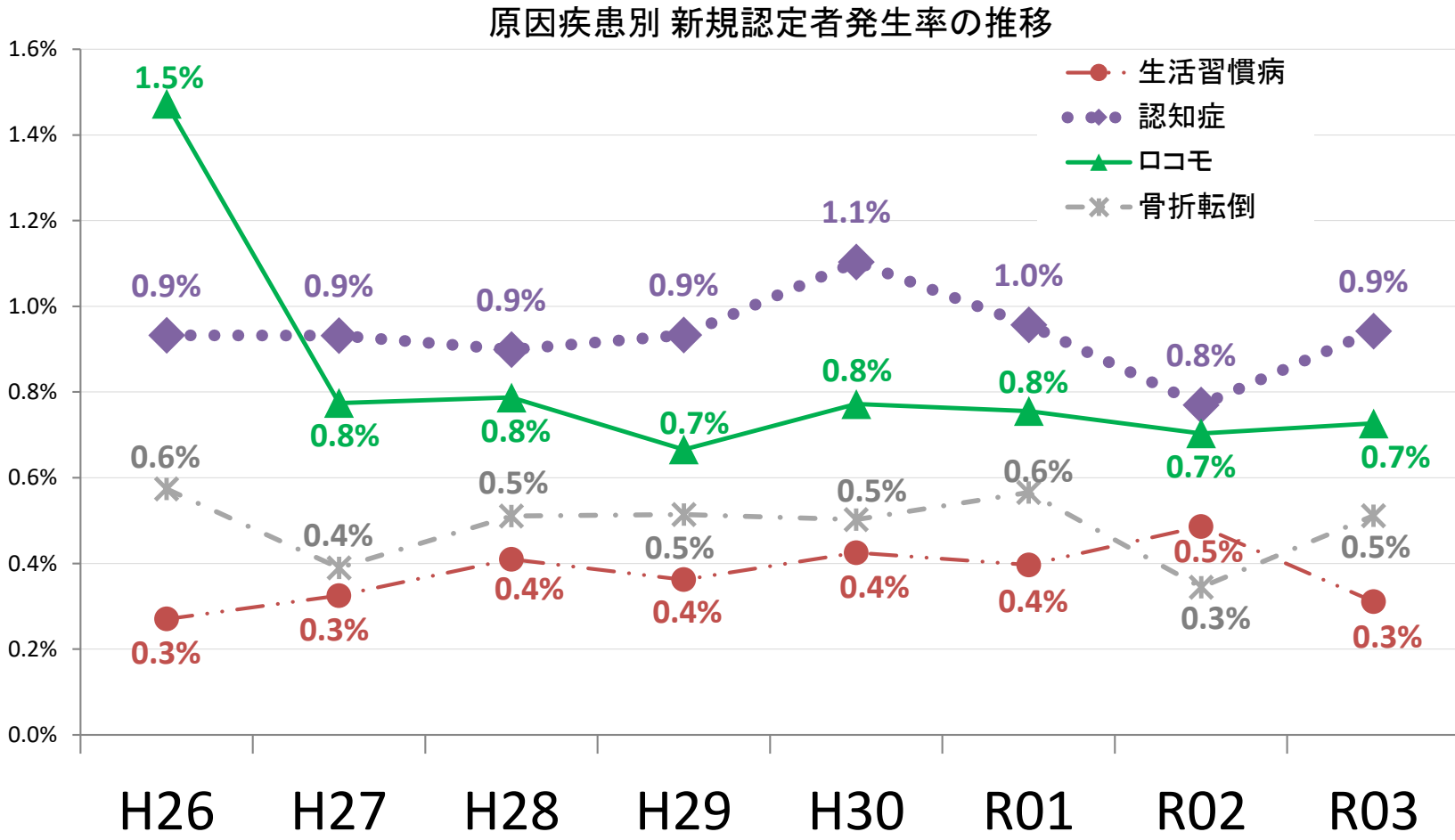
新規認定者原因疾患 (65~84歳)

H26~R03累計



原因疾患別新規認定者発生率の推移（65～84歳）

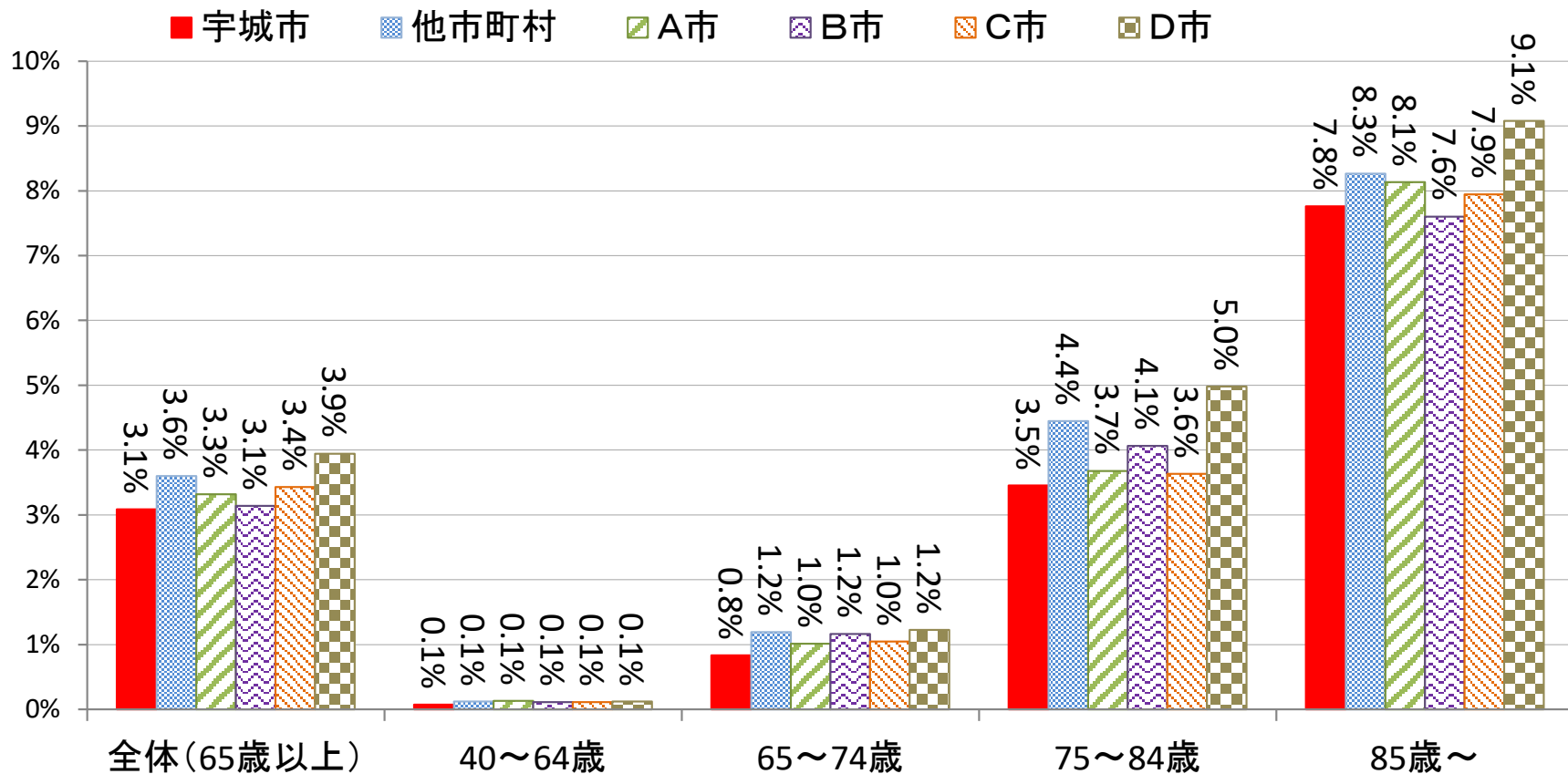
・原因疾患別の新規認定者発生率の推移をみると、生活習慣病、認知症、骨折転倒はほぼ横ばいの傾向であり、ロコモは平成27年度に大きく減少して以降、ほぼ横ばいの傾向である。



年齢階層別 新規認定者発生率の保険者比較

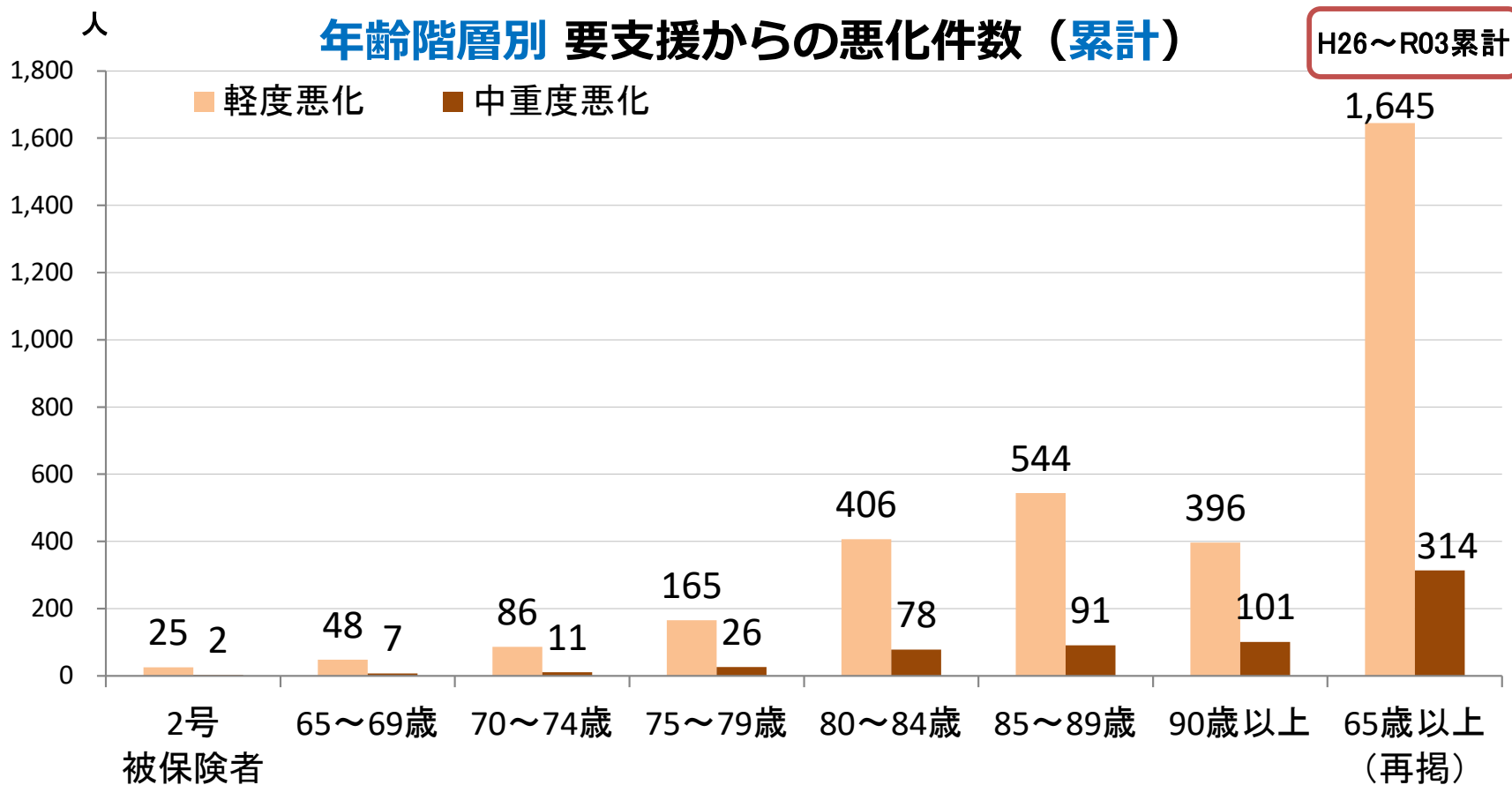
- 弊社データベースで比較した年齢階層別新規認定者発生率で見ると、宇城市は他市町村平均より全体的に低めである。

年齢階層別 新規認定者発生率保険者比較(令和2年度)



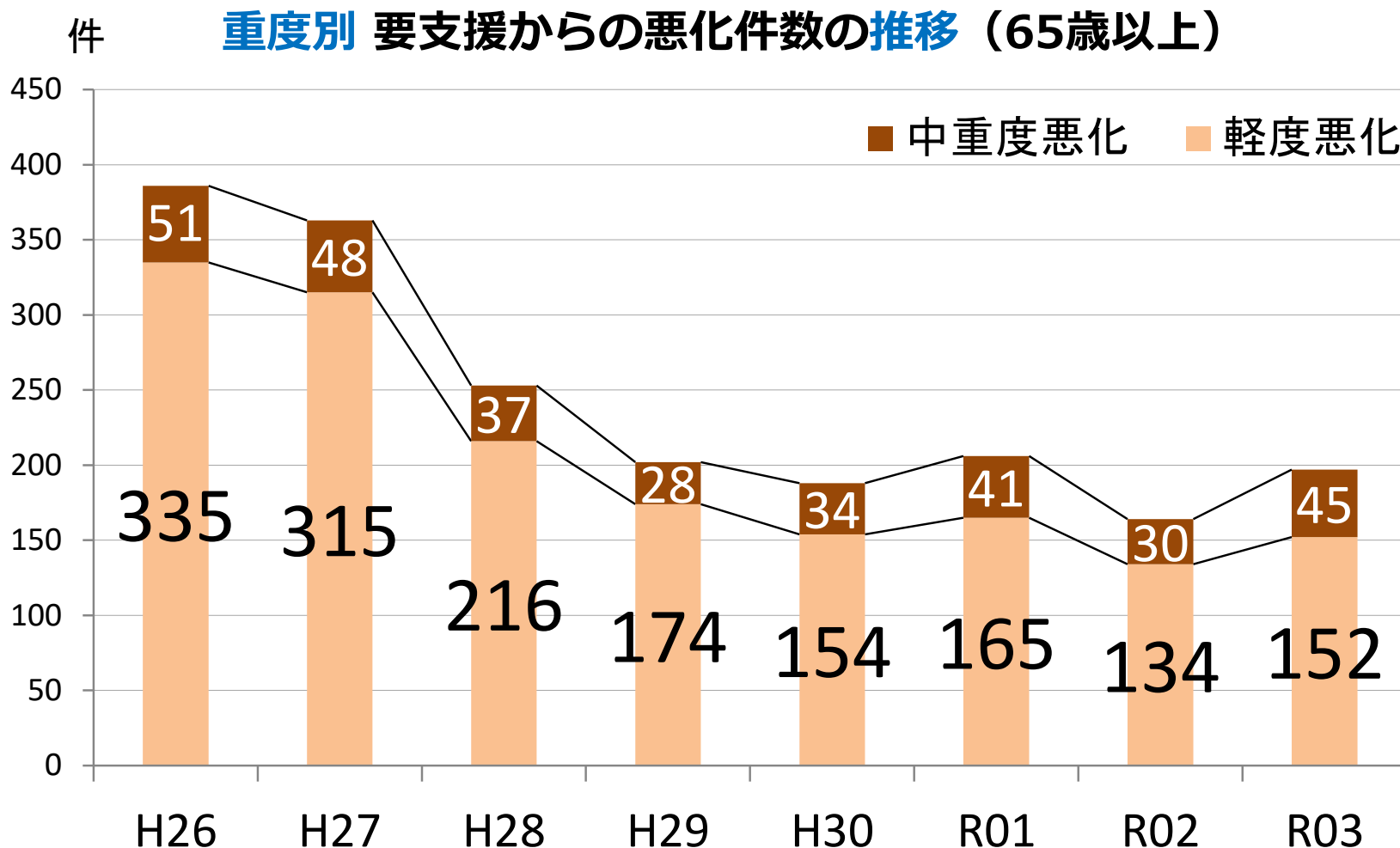
年齢別 要支援からの介護度悪化件数

- 平成26年度～令和3年度累計の65才以上で要支援1～2から要介護2までへの**軽度悪化は1,645件**、要介護3以上への**中重度悪化は314件**であった。
- 年齢別にみると、**75歳を境に増加傾向が加速**する傾向があり、75歳が重度化防止のポイントとなる。
- 軽度悪化では、**85～89歳の年齢階層が予防給付悪化数のピーク**となっている。



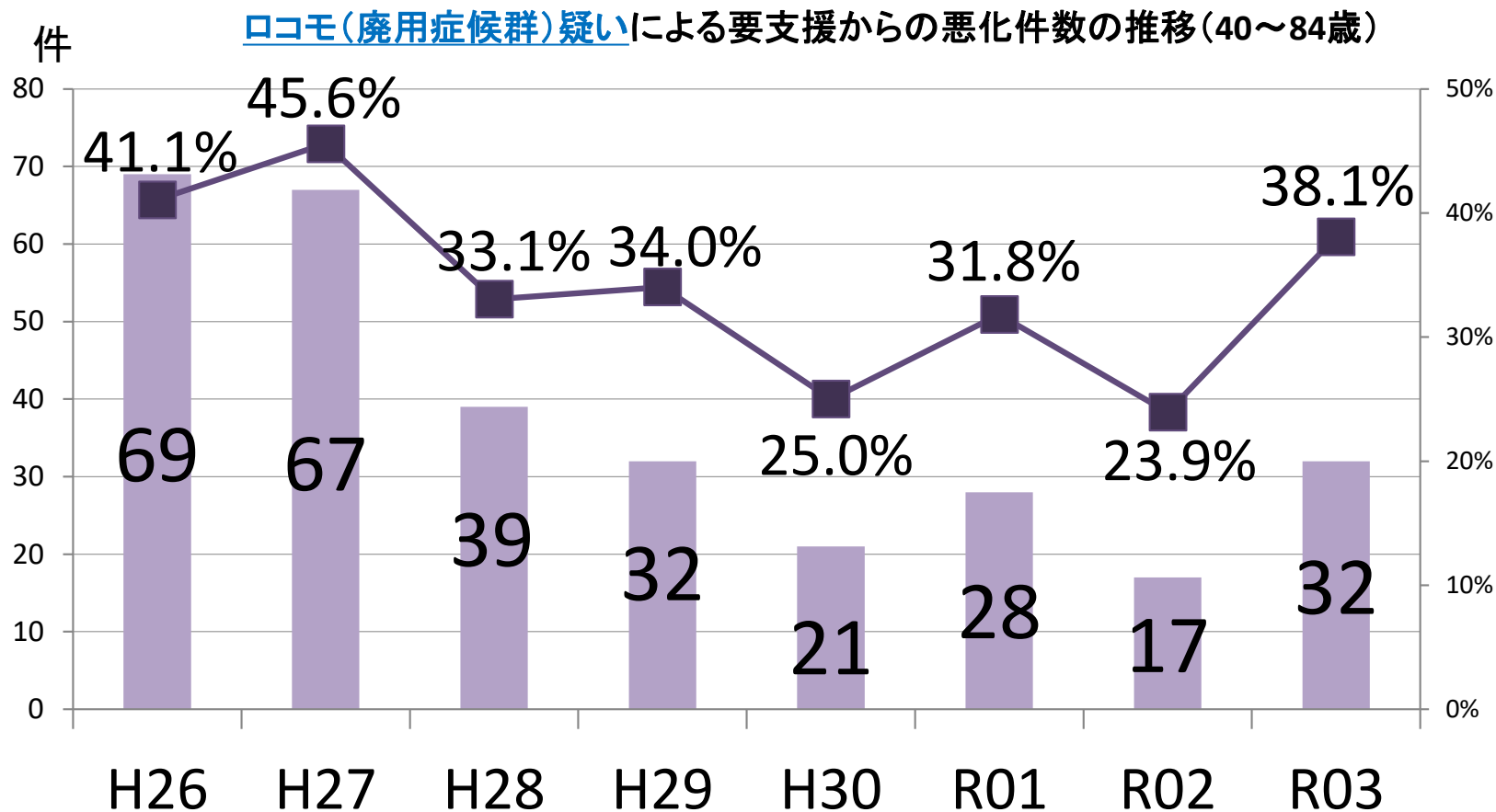
要支援からの介護度悪化件数の推移（65歳以上）

- 令和3年度の軽度悪化は152件、中重度悪化は45件であり、軽度悪化、中重度悪化どちらも前年度よりも増加に転じた。



ロコモによる要支援からの介護度悪化（40～84歳）

- 令和3年度におけるロコモ（廃用症候群。下肢筋力低下および関節疾患）が疑われる介護度悪化件数は32件で、全体の悪化件数の38.1%であった。



—ロコモ（廃用症候群）—
 ・ 下肢筋力低下
 ・ 関節疾患